

## 水野さんに対するパワハラの実態⑤

# 年休を取れ・毎朝会社に連絡しろ・外出するな 管理者が理不尽な指示

水野さんが文書の作成を終わると井出助役は、「書いてもらうものは終わってやる事ができないので有給で休めよ。」と、水野さんに言ってきました。水野さんは6月なのに年休を使うのは不安でしたが、「日勤教育」で一日中隔離されて心が折れ、反論する気力は既になくなっていましたので、年休で休むことに従わざるを得なくなりました。

またその後、軍司助役も「明日からの聞いてる？」と聞いてきたので、会社として水野さんを休ませようとしていること、あくまでも職場には戻さない、他の社員との接触を断とうとしていることが分かりました。



会社は裁判では、あたかも水野さんが年休で休むと言ったかのようにウソの主張をしました。しかし会社は、東京労働局による指導の結果、年休を取り消したのです。

そしてさらに、軍司助役は、「朝9時半に毎日一報入れて」と、状況を報告するよう指示してきたのです。さらに、「休みはどこか行くのか。もっと印象悪くなるぞ」と、家から出かけたりしないよう釘を刺してきたのです。そして実際、水野さんが旅行先から状況報告をしたら、「外に居るのか」と注意されたのです。

水野さんは年休なのに事実上出勤停止や自宅謹慎のような扱いとされ、管理職から四六時中監視・管理されているという拘束感に苛まれ、気持ちがさらに沈んでいきました。